

大阪作業療法 ジャーナル

Journal of the Osaka
Occupational Therapy Association : **JOOTA**

特集 刑務所で作業療法士は何ができるか



Vol. 34 No. 2
Jan 2021

OT
SAKA

(一社)大阪府作業療法士会

大阪作業療法ジャーナル

第34巻 第2号

巻 頭 言

中村 愛子 91

特 集：刑務所で作業療法士は何ができるか

刑務所における作業療法

足立 一 92

刑務所での作業療法士の役割と事例紹介

川口 眞由 98

刑務所における一般就労と

福祉的支援の狭間にある者への OT プログラム

宮口 英樹 103

少年院における動物を介在させた矯正教育の試み

野口 裕美 110

投稿論文(実践報告)

小脳梗塞により転倒不安感を抱いた症例

～脳画像所見を基に治療アプローチを考える～

瀬尾 真裕 117

知っていますか？

作業療法士が経験したコロナ禍における職場の取り組み

【身体障害領域】 中村 孝志・橋本 晋吾・加藤 敏一・兼田 敏克 123

【発達障がい領域】 中村 愛子・泉谷 憲正・植西 祐樹・柳下 雄大 124

【地 域】 田中 歩・蕨野 浩 125

【精神障害領域】 久保 瑞穂 126

【教育領域】 塚越 千尋・東 泰弘・野口 裕美 127

書評カフェ

寺村 肇・門川 泰輔・齋藤 安貴 128

となりの街の作業療法士

地域で働く作業療法士の仕事

～ハートケアグループの取り組み～

中川 英俊 132

隣の街の作業療法士

六車 亮太 137

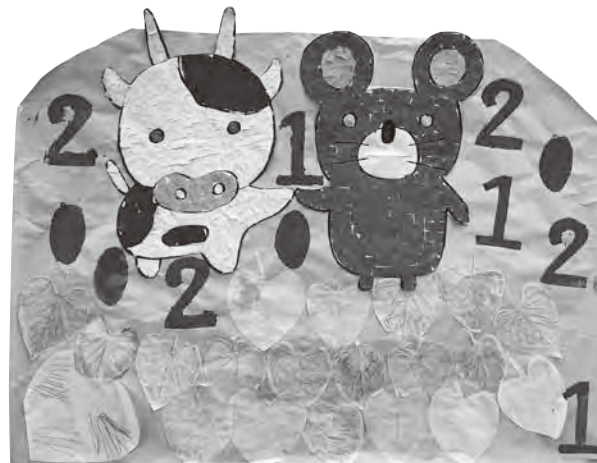
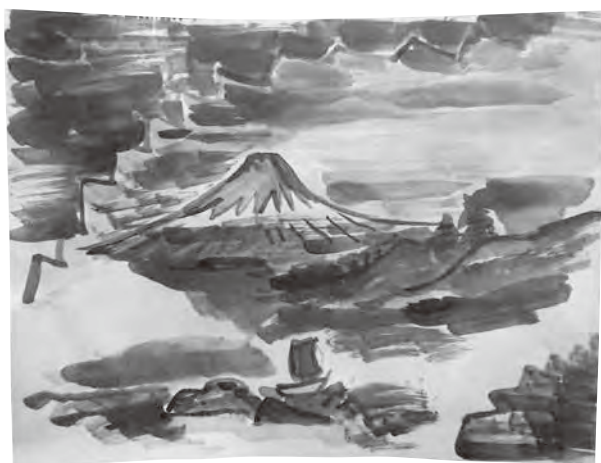
投稿規定 140

執筆要領 142

投稿論文チェックシート 144

編集後記・部員名簿 145

表紙について



2020年は新型コロナウイルス流行に伴い激動の1年でした。2021年は表紙の絵のように仲良く手を取り合い、笑顔あふれる年になるようにと、入院患者様やデイケアのメンバー様がそれぞれに素敵な作品を作成してくださいました。作品は新年を迎えるにあたり、「迎春～自宅に新年を～」をテーマに掲げ、自宅でも自作の風の飾りつけができるように風飾りを作成しました。風には思い思いのイラストを選び、配置などを工夫しながら集中してトレース作業をしてくださいました。他にも新年に思いをはせながら水墨画で描かれた「富士山」、庭でとれたサツマイモの葉を紙にすりつけ草原を表現した仲良し子丑の貼り絵。この表紙のように2021年はめでたいことがたくさんある1年になればと思います。

【お知らせ】

35巻1号から表紙のデザインと〈知っていますか〉が新しくなります。表紙は見るだけで、中身がひと目で分かるようになります。〈知っていますか〉は臨床や研究で使える評価方法を紹介するコーナーに！新しい評価方法や役立つ評価を紹介していきます。新しい〈知っていますか〉に是非ご投稿ください。もちろん、ご自身で開発された評価もお待ちしています。35巻1号からの新しい大阪作業療法ジャーナルにご期待ください。

巻 頭 言

様々な環境下における「社会」「意味のある作業」を考える

中村 愛子

大阪整肢学院

今回の特集テーマは「刑務所で作業療法士は何ができるか」です。みなさまはこのテーマに対してどのようなことを考えられるでしょうか。私はまず、刑務所ってどんなところなのだろうか、その中で作業療法はどのようなことをしているのだろうか、私自身ができることはあるのだろうかといった疑問が多く出てきました。また普段関わることがない領域に対して純粋に知りたいといった興味もありました。

司法領域に関わる作業療法に関しては、日本作業療法士会でも近年トピックとして注目され、刑務所を見学する企画や、実際に関わり道を作ってくださっている作業療法士たちの活動報告がまとめられてきています。

今回の特集では、足立氏がこれまでの刑務所で作業療法士がどのように関わってきたのか、また刑務所とはどのような環境なのかを詳しく述べてくださっています。実際の刑務所での取り組みとして、川口氏が個別的作業療法と事例の紹介を、宮口氏がコグトレを活用した作業療法プログラムとそこから見えてきた課題に関して執筆してくださいました。また、野口氏は少年院において行われている動物介在療法に関するインタビューと、作業療法士として関われる可能性に関して述べてくださっています。

2019年に精神科医の宮口浩治氏が執筆され話題となった「ケーキの切れない非行少年たち」では、少年院や少年鑑別所に在籍する非行少年の中には様々な理由で「人と話すこと」「勉強」が苦手と答える子どもたちが多く、その理由として認知機能の弱さや、感情統制の難しさ、自己評価の不適切さなど発達に偏りがみられる事が挙げられています。このようなケースは刑務所内においても同様の事が言えるのではないのでしょうか。このように考えれば、刑務所内において、作業療法士としてお手伝いできる部分があるのではないかと考えさせられます。

今回執筆して下さった方々が述べられているように、刑務所・司法領域という特殊な「社会」やその中での「意味のある作業」を理解し、現場で働いてきた方々との情報共有が大切になってくると思います。しかし、様々な環境下で、その方の生活を視て、意味のある作業を活かしながら、その方を取り巻く人も含め「環境を調整」することは作業療法士にとって得意とするところではないのでしょうか。私自身、今回の特集を読むことで、そこにおられる方に対して特別に「私自身ができることはあるのだろうか」といった疑問を持つのではなく、今まで作業療法士として子どもたちと関りながら考えてきたこと、取り組んできたことを活かすことができるのではないかと思いました。

コロナ渦で、生活、人との関わり方、働き方が少しずつ変化しています。私たちが関わる方の環境や社会も変わることが考えられる中、より視点を広げ、柔軟に対応していくことが求められていくのではないのでしょうか。今回のジャーナルがみなさまの視点を広げる一助となれば幸いです。

大阪作業療法ジャーナルに広告を出しませんか



大阪作業療法ジャーナルは年2回(1月と7月)発行しています。大阪の作業療法士が学術的発表や特集などを通じ学ぶ雑誌です。大阪府作業療法士会会員(現在会員数2,500人)や大阪の作業療法学科養成校に配布され、一般にも販売されています。

広告はモノクロで A4 1ページ 3万円、1/2ページが2万円となります。

広告を希望される場合は、大阪府作業療法士会事務局までお願いします。

〒540-0004 大阪府中央区玉造2-16-8

玉造井上ビル6階

TEL : 06-6765-3375

FAX : 06-6765-3376

E-mail : jimu@osaka-ot.jp

大阪作業療法ジャーナル

第34巻 第2号

発行人：関本 充史

(一社)大阪府作業療法士会

〒540-0004 大阪府中央区玉造2-16-8 玉造井上ビル6階

TEL : 06-6765-3375 FAX : 06-6765-3376

URL : <http://osaka-ot.jp> E-mail : jimu@osaka-ot.jp

出版：株式会社セカンド

〒862-0950 熊本市中央区水前寺4-39-11 ヤマウチビル1F

TEL : 096-382-7793 FAX : 096-386-2025

